



コスモス



1月：睦月

No. 9

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

へび年に思う

校長 清水 励

令和7年となりました。本年も、保護者・地域の皆様には、本校教育活動への変わらぬ御理解と御支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今年の干支は「乙巳（きのとみ）」で、十二支では「へび年」です。

「へび年」は、脱皮を繰り返すへびの生態等から「変化・再生・成長」の年といわれています。しかし、近年の「へび年」の出来事を調べてみましたが…、残念ながら好事はあまり見つかりませんでした（あくまで私見）。ですので、「へび年だから、去年よりもいい変化をして成長できるように頑張ろう！」と、心掛けて努力することが肝要という「教え」として捉えたいと思います。

へびはあまり「好かれぬ生き物」のようです。知り合いの中にも「へびだけはダメ！」という人が多くいました。なぜへびは嫌われるのか…？嫌われる原因として考えられることは、「足が無くて細長い」「ニョロニョロと這いずり回る」「噛みつく」「毒がある（ものもいる）」「他の動物を丸呑みする」「舌をチョロチョロ出す」「気配が分からず急に出遣う」「目つきが冷徹」「うろこや模様が不気味」などでしょうか…（自分は子供の頃からへびが大好きなので、的を射ていないかもしれませんが）。

そんなへびですが、古くから信仰の対象とされていることも多く、白へびは繁栄の象徴として崇められたり、屋根裏のへびは家の守り神として縁起の良いものとされたりもしています。6年生たちが修学旅行で訪れた「銭洗弁財天宇賀福神社」も、体はへびで頭は人間という神様を祭っています。

古くから人々は、へびのその生態から「畏敬の念」をもってへびに接していたことが伺えます。「畏敬」とは「おそれ敬うこと」で、小学校学習指導要領（特別の教科道徳）にも「美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと」と記されています。ただ、「何を美しく、何を気高いと捉えるか」は、個人の主観に依るところなので、へびについては「畏敬の念」ならぬ「恐れ」「嫌悪」が前面に出てしまっているような気がします。個人的主観や人間の価値観が、人間の身勝手さの正当化につながることを強く願います。

へびの好き嫌いは仕方ありませんが、人間が自然に対して忘れてはならないことを諫（いさ）めた詩の一部を掲載します。

一つの大きな主張が 無限の時の突端に始まり 今もそれが続いているのに
僕等は無数の提案をもって その主張にむかおうとする
（ああ 傲慢すぎる ホモ・サピエンス 傲慢すぎる）

主張の解明のためにこそ 僕等は学んできたのではなかったのか
主張の歓喜のためにこそ 僕等は嘗んできたのではなかったのか
・・・以下続く

【谷川俊太郎「祈り」の前段の抜粋】